

## 都市大気リモートセンシングプロジェクト

## Urban atmosphere remote-sensing project

# 村山 泰啓 [1]; 川村 誠治 [1]; 関澤 信也 [1]; 岩井 宏徳 [2]; 安井 元昭 [3]; 石井 昌憲 [4]; 水谷 耕平 [5]; 常松 展充 [6]  
# Yasuhiro Murayama[1]; Seiji Kawamura[1]; Shinya Sekizawa[1]; Hironori Iwai[2]; Motoaki Yasui[3]; SHOKEN ISHII[4];  
Kohei Mizutani[5]; Nobumitsu Tsunematsu[6]

[1] NICT; [2] 情通機構; [3] N I C T; [4] 情通研; [5] 通総研; [6] N I C T ・ 環境情報

[1] NICT; [2] NICT; [3] NICT; [4] NICT; [5] CRL; [6] Environmental Sensing and Network Group, NICT

近年、大気汚染、都市型集中豪雨など都市域を中心とした環境影響や気象災害が懸念されている。都市域など人工構造物が地表面構成を支配するような地域で、物質の輸送や降水現象の発生と関連する低層大気の収束・対流など、大気境界層の詳しい振る舞い、とくに構造物が直接つくる乱流域（接地層）の上層から上の高度では従来、連続的かつ密に観測する手段がなく、その理解がかならずしも十分とはいえなかった。

われわれは、ドップラーライダーやウィンドプロファイラといった光・電波のリモートセンシング装置を都市域で地上設置して、境界層から対流圏におよぶ風速場の把握、また究極的にはそれによる大気汚染物質輸送や集中豪雨の把握・予測をめざして、観測技術・装置の研究開発と都市を中心とした観測実験を開始している。

講演では装置開発の現状および昨年夏に得られた初期観測結果について報告する。